

尿糖

尿中に糖が含まれていないかを調べる検査です。通常、糖は身体に必要な成分として腎臓で再吸収されます。しかし腎臓の機能が低下している場合や、血中の糖が腎臓の処理機能を超えて高くなる場合には、糖が尿に出てきます。もっとも尿糖が出やすいのは、食事をして約2時間後。この時間帯に尿検査をすることで、尿中に糖が含まれていないかをより正確に把握できます。



■ 異常があった場合に考えられる病気

糖尿病

尿ウロビリノーゲン

ウロビリノーゲンは、胆汁に含まれているビリルビン（胆汁色素）が腸内細菌によって分解されてできる物質です。その大部分は便とともに排泄されますが、一部は腸から吸収されて肝臓に戻り、再び胆汁の成分になります。

尿中のウロビリノーゲンの量は、肝臓や胆道の異常を調べる指標となります。



■ 異常があった場合に考えられる病気

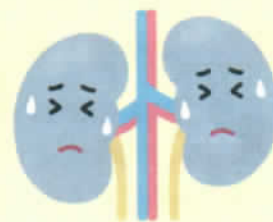
- 陽性(+)の場合：肝臓障害、溶血性貧血など
- 陰性(-)の場合：胆道閉塞など

尿沈渣

尿を遠心分離器にかけ、沈殿した成分の種類や数を顕微鏡で調べます。沈殿物には赤血球、白血球、細菌、結晶、円柱（尿中にできる固形物）などが含まれています。これらの状態を調べることで、腎臓や尿路（尿管、膀胱）などの異常を確認します。

■ 異常があった場合に考えられる病気

- 赤血球が多い場合：腎臓や膀胱の炎症、尿路結石、腎腫瘍、膀胱腫瘍など
- 白血球が多い場合：腎臓や膀胱の炎症など
- 円柱が見られる場合：腎炎、ネフローゼ症候群など
- 上皮細胞が見られる場合：腎臓や尿路の炎症など



尿検査を受けるときの注意

尿蛋白や尿糖は、激しい運動や疲労、ストレスなどで検出されることがあります。また食事の影響を受けるため、食後すぐの検査では正確な結果が得られません。検査を受ける際は運動や体調不良、月経中などの時期を避け、食事時間の指示を確認しましょう。

また、尿を採取する際は、尿道口付近の雑菌を尿に混入させないように、出はじめの尿は採取せず、途中の尿（中間尿）を採取しましょう。



最後に

尿検査は、腎臓病や糖尿病などの初期段階で症状が出にくい病気を見つけるのに役立ちます。尿検査異常が見つかった場合は、必ず医療機関で再検査や精密検査を受けてください。尿検査の結果が陽性ということは何らかの原因があり、裏に大きな病気が潜んでいる可能性もありますので、異常が出た場合には、早めに医師にご相談ください。

